



富士市の通訳として嘉興市人民政府訪問団を迎えた

戴 旭東さん

原田2丁目 38歳



嘉興市と国際友好提携を進めるに当たって、一番の壁は言葉。今回、まさに友好の橋渡し役として活躍したのが戴さんです。上海で大学の日本語教授をしていた戴さんは、中国で日本人の四条佳子さんと結婚。一昨年の五月、

先に帰国していた奥さんのもとへ来日しました。現在は東京の商社で中国貿易の営業を担当し、単身赴任しています。戴さんを評して知人は「努力家」と言います。来日してから、「日本語をマスターするには実社会で学ぶのが一番」と市民プールや飲食店で寸暇を惜しんで働きました。こうして、日本人の考え方や生活習慣を肌で感じたことが、わかりやすい通訳として生きています。「日本語は難しい。もつと苦労しなければだめですよ」とあくまで謙虚。五月に訪中する市議会の調査団の通訳も勤めます。週末には、奥さんと一人息子の健君のもとへすつ飛んで帰ってくる優しいお父さんでもあります。



社交ダンスで若返り
ハプストシ社交ダンスクラブ



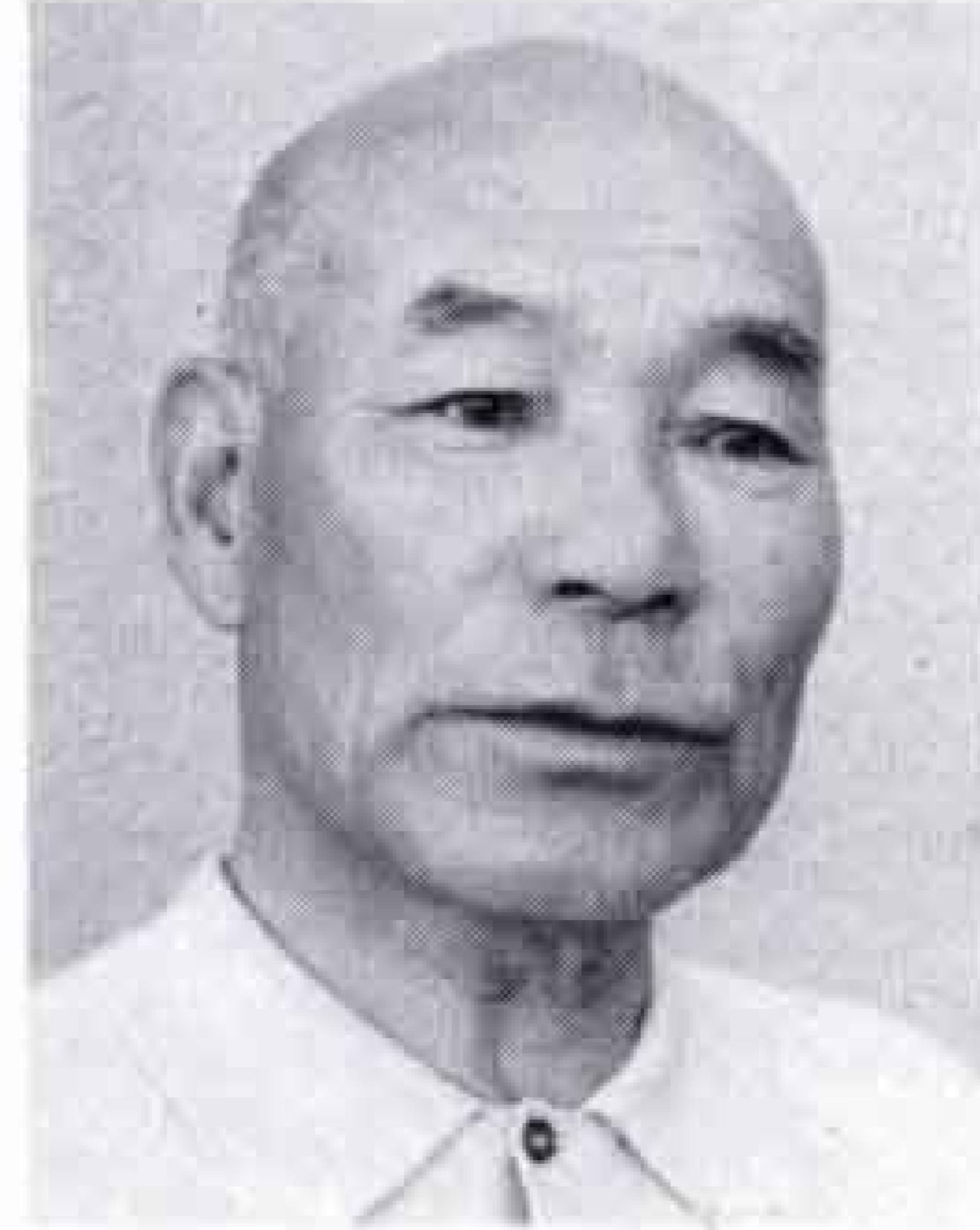
おはなむすぶ
PILCHIKI ケーシオン
中村のり子さん 宮下

もともと地元の出身だが、高校の時、東京へ。そして、五年前にUターンし、現在地の宮下へ。あるとき、ケーキづくりを頼まれたのがきっかけで、毎月一回おやつづくりを仲間と楽しむ。「仲間ワイワイ騒ぎながらつくっておやつはコミュニケーションづくりにも最適です」と語ってくれました。

「とても楽しい。雨が降ってもたくさん集まりますよ」と代表の石持金次郎さん(六十七歳)。男性はポロシャツに黒の革靴、女性は銀色のハイヒールで決め、背筋がピンとのびて格好いい。今では、マンボ、シルバなど十を超えるレパートリーを持っています。練習は南公民館で週二回。五十七歳以上ならだれでも可です。

まちな

我がまちを語る



中山定雄さん

靖国 (69歳)

新しい明るいまち
「昔は、私の家からも海が荒れている日には、波が見えたものです。砂浜は広く、浜にはぐみの木があったのを覚えています」と靖国に住む中山定雄さん(六十九歳)は昔

をしのびます。「富士南地区は、駅南地区と田子浦地区の一部が一緒になってできた新しい地区なので合併当初は、うまくいくかどうか大変心配しました。しかし、両地区の人たちが、譲り合うところは譲り合い、お互い協力し合っただけで非常にうまく溶け合うことができました。この地区は、他県出身者も多いのですが、この人たちは故郷を離れているせいか、隣近所のつき合いを大切に、地区活動も積極的に参加します。富士南地区を一言で表現すると「新しい明るく将来性豊かなまち」です」と語っていました。

あの人の人こんなこと



五十軒分のしめ飾りをしる
吉田則雄さん 三四軒屋

十五年前に家を建てたとき、お正月のしめ飾りを見よう見まねでつくり始めたのが、事の始まり。隣近所の分を頼まれるうちに、今では約五十軒分のしめ飾りをつくるようになりました。十一月に米の収穫が終わると、一カ月以上かけて作ります。よいわらでつくるのが重要で、稲の生育にも気を使います。

